

双方向の交流で相互理解の促進を

横浜国立大学 鈴木邦雄学長

横浜国立大学の鈴木邦雄学長を団長とする代表団が、9月14日から9月17日の4日間、来連した。代表団は、同大学大連同窓会に参加したほか、大連理工大学や大連外国語大学、高級経理学院を訪問するなど、中国側と交流を深めた。訪中回数も多く、横浜国立大学の国際化を積極的に進めている鈴木学長に、大学の国際交流や両国の若者に期待する思いを聞いた。（関連記事15ページ）

大連も重要な国際化の舞台

「まず、大連同窓会へ参加されてのご感想をお聞かせください。」

「国境はないと感じました。また、世代を超えた交流ができたのも、大きな成果だったと思います。横浜国立大学には「シヨートステイ・シヨートビジット」という短期の学生交換プログラムがあります。提携校の大連理工大学とは、すでに3年目に入りました。本

日の同窓会も、同プログラムで理工大へ留学中の本学学生、来年1月に本学へ留学予定の理工大生も参加し、在校生から卒業生まで、世代を超えた交流が実現しました。

「横浜国立大学と卒業生との関係はいかがでしょう。」

卒業生には、とてもお世話になって

おり、感謝しています。本学の海外展開を例に出しますと、海外の提携校には、ほとんどの学校に本学の卒業生がいます。大連理工大学にも卒業生が教員として勤務しており、彼らの尽力もあって、提携が迅速に進みました。

「今年の訪中は今回が3度目とかがいりましたが……。」

1回目は四川省の四川大学を訪問しました。地震災害からの復興を議題とした研究会に参加し、四川大学とは地

震復興に関する共同研究も立ち上げることになりました。2回目は北京と上海を訪問しました。北京では対外経済貿易大学との間で、双方の大学内における「リエゾンオフィス」を設置することで合意しました。

「今回、学長が直々にいらっしゃるといって、強い意思を感じましたが、大連訪問への思いをお聞かせください。」

まず、北京や上海だけが中国の大きな都市ではないという思いがあります。そして特に、大連は親日的で、日本を向いている都市だと思っています。大連には日本に関心を持っている学生や教員が多く、彼らの気持ちに添ってあげたいという想いがあります。大連とのつながりを太くしたいと考え、先程の学生交換など双方向の交流を行ってきましたし、これからも続けていきます。本学の独自性を出せるのが大連だとも考えています。英語圏だけが国際化の舞台ではなく、大連も重要な国際化の舞台なのです。

「大学の国際化」が叫ばれて久しいと思いますが、「大学の国際化」に関しては、どの様にお考えでしょうか。

まず1つ目に、就職の視点があります。最近では、企業が学生の海外経験を重視し始め、就職の条件とするケースも出てきました。このような企業からの要請に、大学も無反応ではいられません。本学の場合、「お試し」で海外経験を積めるような短期間のコースを設けました。この「お試し」の後、本格的な留学に旅立つ学生もいます。また、最近の学生は内向きだと言われますが、彼らが外へ出る後押しというのが、2つ目の視点です。幸いに、本学の新生にアンケートをとると、「留学に行きたい」と答える学生が半数以上で、これは良い追い風だと思っています。

「学生たちには、国際人としてどの様な人材に育ててほしいとお考えでしょうか。」

外国人と対等に話せ、物怖じしない学生に育ててほしいと願っています。つまり「アウェーで戦える」人材です。この「アウェー」には、日本の学生が海外へ出た場合の「アウェー」と、留学生が日本へやって来た場合の「アウェー」、両方の意味を含めています。

「横浜国立大学の国際展開に関して、具体的な将来構想はお持ちでしょうか。」

将来は、中国にサテライトキャンパスを作りたいと思っています。日本からも教職員が中国のキャンパスへ出向きます。そこで学ぶ学生は、現地の学生と日本の学生、両方を想定しています。この中国キャンパスを留学の前段階と位置づけ、日本の学生が中国キャンパスを足がかりに中国の大学へ本格的に留学、中国の学生からすれば、本学へ留学する前段階が中国キャンパスです。さらに、学生の交流だけではなく、教員の交流や冒頭でふれた共同研究が重要なと考えています。教育と研究を合わせることで、国際化や国際交流は持続していくものです。

「最後に、両国の若者への期待をお聞かせください。」

若者は、短期的に物事を判断しがちです。ですが、短期的な判断ではなく、個人でしっかりと歴史を勉強し、その上で判断してほしいと思います。また、実際にその地へ行き、実際に体験することが何よりも大事でしょう。伝聞だけではなく、自分の目で、真実を見てほしいのです。そのために、双方向の交流を常に念頭においています。



鈴木邦雄さん

1948年、宮城県生まれ。東北大学理学部卒、理学博士。専門は生態学や環境マネジメント。1973年、横浜国立大学へ着任し、大学評議員や経営学部長、大学院環境情報研究院長、副学長などを歴任。2009年4月、学長に就任。



大連同窓会で参加者たちと

横浜国立大学

住 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1
電 045-339-3014
HP <http://www.ynu.ac.jp>

「実践性」「先進性」「開放性」「国際性」を基本理念とし、教育人間科学部、経済学部、経営学部、理工学部の4学部と大学院、法科大学院、ビジネススクールからなる国立大学。国際交流にも積極的に取り組み、全学生の1割にあたる約1000人の留学生が学ぶ。大学間協定校は、32の国と地域に84大学と1機関(2013年7月1日現在)、海外への研究者派遣や海外からの研究者受け入れも多い。